

4年 「わかったさんのアップルパイ」

ぼくが選んだ本は「わかったさんのアップルパイ」です。なぜぼくがこの本を選んだかというと、アップルパイを食べたことがないからです。そしてわかったさんシリーズの4冊目を読んだことがないからです。

(わかったさんは)クリーニング屋の集金に行き、4丁目をまわるときにふしぎなことを経験したり、こわい目にあいました。

ぼくがいちばん心に残った場面はうさぎがこしょうしたわかったさんの車をおしてふみきりをわたる場面です。なぜかというとそこを読んだとき、すごくやさしいうさぎだなという気持ちになったからです。うさぎはわかったさんためになる事をしてすごいなあと思いました。感心します。

わかったさんは、かみなりさまに会い、かみなりさまが「リンゴをもっててくれたのか」と言ったのに、「あなたにはとどけない」といったので、かみなりさまがすいこもうとしました。

この場面の前でわかったさんは、たぬきにききゅうに乗せられてしまいました。かみなりさまに「ききゅうからおりなさい」と言われ、雲の上に立たされました。雲の上は、さむくてつめたくて体がしびれました。そんなこわい思いをしたのに、かみなりさまに、リンゴをわたすことになりました。かみなりさまはパイつくりの名人で、パイ生地を作りながら、パイ生地の作り方を教えてくれました。

そのあとかみなりさまは、わかったさんにしんをわたし、「リンゴの命はしんにある」と言いました。わかったさんはそのしんをクマおばさんにおきました。

クマおばさんは土をほり、りんごのしんをうめました。そしたらたねからぬがでてきて、めから木ができて、さいごに実になりました。リンゴを3個とって、クマおばさんの台所をかりて一人でアップルパイを作りました。

そして、さいごに本屋さんの前をとおったら本をわたされ、わかったさんは、その本を読みました。その本が「わかったさんのアップルパイ」でした。

もしもぼくがわかったさんだったら、こわいのを忘れて、いっしょうけんめい、くろうしても、かいつけできるように、がんばります。なぜかというとぼくはみんなから信頼されていないので、信頼される人になりたいからです。